

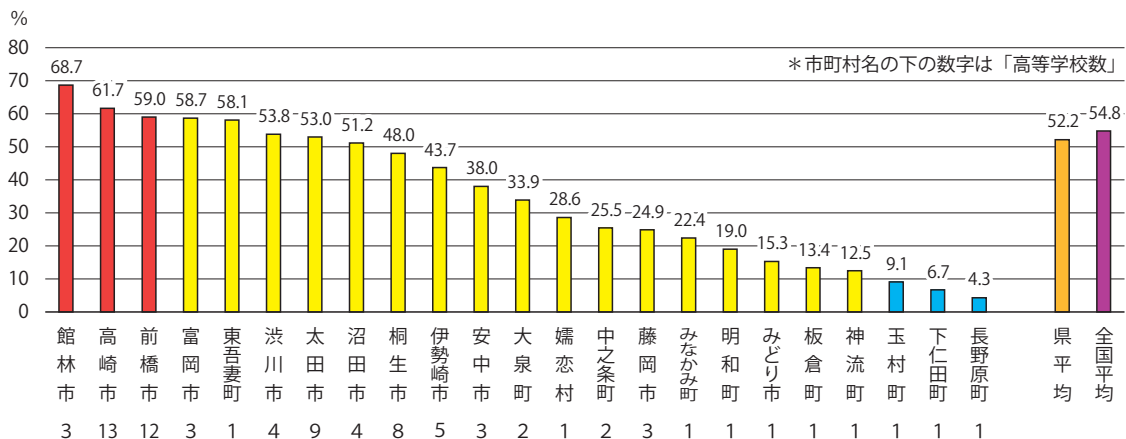
# 県内で大学進学率が最も高いのは館林市内の高等学校

～就職者の割合が最も高いのは、板倉町の高等学校～

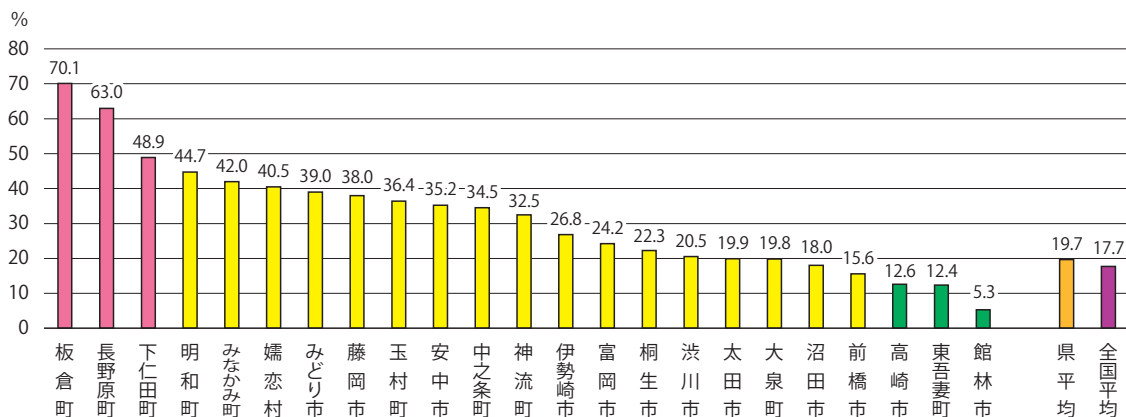
○2017年8月に発表された学校基本統計速報によれば、16年度（17年3月）の高等学校卒業生（群馬県合計：1万7056人）の進路を高等学校の所在市町村別にみると、「大学等への進学者」の割合が最も高いのは「館林市」（68.7%）となっており、以下、高崎市（61.7%）、前橋市（59.0%）と続いている（図表1）。

○同様に「卒業者に占める就職者」の割合が最も高いのは、板倉町（70.1%）で、以下、長野原町（63.0%）、下仁田町（48.9%）となっている（図表2）。

図表1 高等学校卒業生の「大学等への進学者」の割合（高等学校所在地別）



図表2 高等学校の「卒業者に占める就職者」の割合（高等学校所在地別）



\* 高等学校が存在する市町村は全部で23市町村である。

\* 「大学等への進学者」とは、大学（学部）、短期大学（本科）、大学及び短期大学の通信教育部・別科<sup>(注)</sup>、高等学校（専攻科）、特別支援学校（専攻科）に進学した者をいい、「専修学校（専門課程、一般課程等）」、「公共職業能力開発施設等」への進学者は含まない。

(注) 別科：高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力を持つ者に対して、「簡易な程度において、特別の技能教育を施すことを目的とした、修業年限を1年以上とする課程」で、留学生に対する日本語の別科、養護教諭養成のための別科などがある。

資料：文部科学省「平成29年度学校基本調査（速報値）の公表について」  
群馬県「平成29年度学校基本統計速報（学校基本調査の結果速報）」

(担当：伊勢和広)